

9 月定例議会一般質問

※奈半利町制 100 周年記念に向けての準備は十分か？

質 問 （一回目）

今年は、日本国にとってさまざまな節目の年と成りました。戦後 70 周年を始めとし、日韓基本条約 50 周年等、国政レベルでも大きな過渡期であるとも考えられます。また、高校野球甲子園 100 周年でもありました。

さて、当町におきましては来年 2016 年（平成 28 年）5 月 1 日にいよいよ奈半利町制 100 周年の大きな節目を迎えます。

奈半利町は、1916 年（大正 5 年）に中芸のなかでもっとも早く町として、その歴史を刻み始めました。様々な環境の変化、発見等を繰り返しながら現在に至って居ります。その中には歴史的発見や、又、社会・建設・防災インフラの整備などにより町としての景観まで進化を続けております。まさに時代が流れてきた事実である。

しかしながら来年 5 月 1 日に奈半利町制 100 周年という歴史的瞬間を迎えるわりには、奈半利町全体の雰囲気と申しますか、空気が伝わってこない。町民に対しても伝わって無いように感じます。

実際多くの町民が 100 周年の事すら知らないような状況にある。

住民自治の観点から考えると、この歴史的瞬間の主役は町民であり、また職員・議会議員もその瞬間に遭遇できるという事は非常に名誉な事だと思います。まずは、100 周年記念への意識付けが重要と考えるが、残り約 7 ヶ月、来年の 100 周年に向けて町民及び町外に対してどのような広報活動を行い周知して行くのか伺いたい。

※例えば、横断幕を庁舎・奈半利駅・公共施設に張るとか、なはり広報に掲載するとか、ホームページで告知するとか？

答弁者 （総務課長 太田達也）

当町は、明治 22（1889）年 4 月 1 日に村制を施行、大正 5（1916）年 5 月 1 日から町制を施行し、来年 5 月 1 日に町制 100 周年の節目を迎えることとなります。

しかしながら、ご指摘のとおり当町における一大行事であります町制 100 周年について、町民に対して広報等による情報を十分に発信できておりません。

そのため、議員からのご提案のありました（庁舎、奈半利駅等の公共施設な

どに横断幕を張ることや広報や町ホームページを活用する) ことなどを含めて、より効果的な広報活動や方法について検討し、また町制施行 100 周年を迎えることは全国的にもあまり例がないと思われるため、当町のイメージや知名度をアップする絶好の機会ともなりますので、この町制 100 周年の記念すべき日を町民に対してはもちろんのこと、町外・県外にも積極的に PR していきたいと考えております。

質 問 (二回目)

27 年度一般会計予算書の 2 款(総務費)で町制施行 100 周年記念事業委員報償費として 13 万円の予算が計上されているが、どのようなメンバーで構成され、また、どのような内容が何回位検討されているか伺う？

奈半利町民には当然愛町心がある。愛町心は奈半利町の歴史を知ることから始まるものです。来年には 100 周年に合わせて奈半利町史も発刊されると聞いております。非常に重要な事と思いますので、大変期待をしておるところです。併せて、残りの期間を考慮すると、決して長くは無い期間での企画に成ると想定できますが、100 年に一度、奈半利町を挙げての一大行事である事は間違いない。まだまだ経済的な効果も実感されていないこのような時にこそ、一刻も早く明るい話題を町民に提供し、国が示している地方創生事業との関連性も念頭において、町民参画型の町制 100 周年記念事業として取り組んで頂きたいと思うが、見解は？

※100 周年記念パンフレットを作成するとか、町勢要覧の事も考えましたが、2011 年に改正されたばかりなので。

答弁者 (総務課長 太田達也)

町制施行 100 周年記念事業委員会につきましては、広く町民からの意見を聴くために、議会をはじめ町内の農林水産、商工観光、教育、福祉等の公共的団体の代表者等をそのメンバーとし、各種記念行事等について検討していただく委員会を計画しておりますが、まだ当該委員会を組織するまでには至っておりません。

そのため、早急に委員会を立ち上げて、役場内で当町の町制 70 周年の記念行事や他の自治体の事例を参考に、町制 100 周年の記念行事及び発行予定の記念誌の素案を作成し、当該委員会に提示したいと考えております。

「澄みわたる青空、眩しい太陽のもと、緑に輝く四国山脈の奥深く源を発し、涯なき太平洋にそそぐ奈半利川の絶えることない清流と共に幾星霜、私達の郷

土奈半利町は、生まれ、育ち、栄えてまいりました。」と奈半利町史の序文にありますが、この自然豊かな郷土づくりに邁進してこられました先人達のご努力に対し感謝と敬意を表し、その遺産を受け継ぎ、次代を担う子供たちに伝えていくとともに、当町のさらなる発展と奈半利町総合計画のキャッチフレーズであります「人いきいき地域輝く美しい町なはり」の実現を目指すことを目的として、この町制 100 周年記念事業に取り組んでいきたいと考えております。

質 問 （三回目）

再度申し上げますが、住民自治の観点より**主役は奈半利町民**である事をしっかりと認識をし、町民参画型の 100 周年記念事業に成るように強く要望しておきます。この質問の答弁は、結構です。